

科目名	臨床心理面接特論Ⅱ			ナンバリング	858014	授業形態	0
対象学年	1 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	大島典子〇	担当教員					

授業の概要	臨床心理面接を実践するための基礎として、臨床心理面接の姿勢、資料による臨床心理面接の実際、対象者理解を扱う。						
到達目標	1. 臨床心理面接の実践に必要な、クライアントに向き合う姿勢について自分の課題を発見することができる 2. 資料を通して臨床心理面接の実際を学び、各オリエンテーションにおける臨床心理面接の流れを理解することができる 3. 疾患および困難を抱える人について知識を得、臨床心理面接がそれらの状況にどうアプローチするのかを説明することができる						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	日頃から、本講義で扱う事象や疾患について興味を持ち、対人理解の幅を広げる姿勢を養うようにしてほしい。						
ディプロマポリシーとの 関連	【人文学研究科 臨床心理専攻(修士課程)のディプロマポリシー】						
		1. 人間におけるさまざまな物事や問題を、臨床心理学の方法論を用いて探求し研究できる。					
	○	2. 臨床心理学の知識を深めるとともに、心理学全般にわたる幅広い教養を持ち、臨床的な枠組みを用いて、実践的に研究することができる。					
	○	3. 心理臨床の場面に対応しうるコミュニケーション能力を持ち、状況に応じたふさわしい自己表現ができる。					
		4. 自ら問いを立て、それに答えていく研究能力を持ち、積極的に活動できる。					
		5. 各自の研究成果を、修士学位論文にまとめ上げることができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 臨床心理面接の実践に必要なクライアントに向き合う姿勢について自分の課題を発見できる 2. 資料を通して臨床心理面接の実際を学び、各オリエンテーションにおける臨床心理面接の流れを理解できる 3. 疾患および困難を抱える人について知識を得、それらの人々への理解が深まる	1. 臨床心理面接の実践に必要なクライアントに向き合う姿勢について自分の課題を発見し、必要に応じてその課題を変容し、望ましい姿勢をもちクライアントに向き合う準備ができる 2. 資料を通して臨床心理面接の実際を学び、各オリエンテーションにおける臨床心理面接の流れを理解し、その技法を臨床心理面接の中で用いる準備ができる 3. 疾患および困難を抱える人について知識を得、実習の中でそれらの人々と関わるための準備ができる

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○		20%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		30%
授業態度・授業への参加	○		○	○	○		50%

課題、評価のフィードバック	レポートは、その後のディスカッションに用いるため、その都度、フィードバックをする
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	臨床心理面接の姿勢	面接をはじめるにあたっての心構え	
	第2回	臨床心理面接の姿勢	面接をはじめるにあたっての心構え	
	第3回	臨床心理面接の実践	クライアント理解	
	第4回	臨床心理面接の実践	来談者中心療法	
	第5回	臨床心理面接における対象者理解	発達障害	
	第6回	臨床心理面接における対象者理解	発達障害	
	第7回	臨床心理面接における対象者理解	PTSD	
	第8回	臨床心理面接における対象者理解	うつ病	
	第9回	臨床心理面接における対象者理解	統合失調症	
	第10回	臨床心理面接における対象者理解	統合失調症	
	第11回	臨床心理面接における対象者理解	統合失調症	
	第12回	臨床心理面接における対象者理解	自死	
	第13回	臨床心理面接における対象者理解	自死	
	第14回	臨床心理面接における対象者理解	犯罪被害	
	第15回	まとめ	まとめ	
	試験	実施しない		
授業の進め方		配付資料および視覚教材により進行する。毎回の内容をレポートにまとめ、ディスカッションを行う。		
授業外学習の指示		講義内で扱った内容についてレポートをまとめる。 （授業外学習時間： 毎週 90 分）		

教科書	使用しない
参考書	使用しない
参考URLなど	
その他	